

下顎前歯叢生治療法のシステマティックレビュー

○木舩敏郎、きふね小児歯科

【背景】

英国の国民医療サービスは無料で提供される。有効な治療法のみを無料とするため、根拠に基づく医療 (EBM) が唱えられ、1992年英国医師会雑誌にシステマティックレビューが掲載された。一般にヒトを対象とした研究では、8つのエビデンスレベルがある。専門家個人の意見、専門委員会報告は最もレベルが低く、対照群を伴わない研究や症例報告は次いでエビデンスレベルが低い。無作為抽出による比較試験のレベルは高く評価され、システマティックレビューにより、このような複数の研究を結合して再統計処理がされたメタ解析が最も重要視される。

【目的】

下顎前歯部叢生の治療法には選択肢が多く、日本小児歯科学会の治療ガイドラインは存在しない。システマティックレビューを行い、EBMが存在するかを調査した。

【方法】

学術論文を、Web上の医中誌、PubMed、Scopusを使い九大図書館経由にて検索した。検索用語は「下顎叢生」と「混合歯列期の叢生」とした。全文を入手でき、日本語と英文で書かれたものだけを対象とした。

【結果】医中誌では学術論文がヒットしなかった。英文では、乳歯のスライスと抜歯、リングアーチ、リップバンパー、下顎歯列の側方拡大、2×4アーチ、連続抜歯法等の論文が存在した。

【考察】

臨床治療では、EBMに基づき誰もが可能な方法を、学会の治療ガイドラインとして示す必要がある。学会参加等でガイドラインの知識が得られるならば、小児歯科標榜医の小児歯科学会への加入を促す可能性がある。

【結論】

無作為抽出比較試験、メタ解析による上位のEBMはほとんど存在しなかった。日本では一般的な「咀嚼の増強による下顎叢生の解消」のEBMは現在のところ存在しなかった。

小児歯科医としての学校歯科活動 第1報

○加藤真由美*、尾崎正雄**、

*くばがわ歯科医院、

**福岡歯科大学 成長小児歯科学分野

【目的】

我が沖縄県は、年々齲蝕減少傾向にあるものの、一人平均齲蝕歯数は全国平均0.9歯に対して沖縄県は2.1歯と長年にわたり低迷しており全国最下位である。演者が学校歯科医をしている小学校は平成27年度健診後歯科受診率は在校生791名中全体で17.8%という結果であり処置歯数も低い状態である。そこで児童への啓蒙と歯科医院への受診率を上げるために、各学年に合わせた歯科保健活動とアンケート調査を行ったところ、教育効果がみられたので報告する。

【方法】

1) 1年生の保護者に対して日曜参観日に「親子歯みがき指導と講話」を開催した。2) 3年生と6年生に対しては歯みがき指導の前に、プリント配布し親子で第一大臼歯の確認をしてもうなど、自身の歯に興味を持ってもらった。また、齲蝕予防を中心とした講話と染め出し後のブラッシング、フロス指導を行った。3) 2年、4年、5年生に対しては、歯科衛生士を派遣し歯科健診日に10分程ブラッシング指導を行った。

【結果・考察】

演者は、平成21年度より歯科校医として毎年歯科保健活動を行っている。しかし平成27年度は教員の異動のために、活動が1年生以外は行えず歯科受診率が前年度42.9%から17.8%と低下した。そこで平成28年度は事前にプリント配布した後に歯科保健活動を実施したところ、1年生保護者からはフッ化物に関する質問があり、児童の感想文によると「おやつはお菓子だと思っていた。」「朝はうがいしかしていなかったがこれからは歯みがきもする。」などの感想が多数みられた。このことから、あらためて積極的な情報発言・気さくなコミュニケーションの実施が必要であると実感した。